

# いわて思春期研究会 交流会のお知らせ

本来は、総会を行う予定だった6月12日にいわて思春期研究会の交流会を企画いたしました。東日本大震災を受けて、災害地の子どもや若者の心の問題や性的問題について、または震災に関わるあらゆることに関して話し合います。

活動している方には現状や課題をお話ししていただき、活動をしていない方は、報道などをみて感じていることなどをお話ししていただきたいと思っております。

皆がそれぞれの立場、個人として、感じている思いを話し、交流する会にしたいと思っています。たくさんの会員の方の参加をお待ちしております。

日時：平成23年6月12日(日)

13:00~16:00

場所：アイーナ8階会議室(803)

## <当日のプログラム予定>

13:00 受付開始

13:30 小林会長挨拶

13:35 秋元義弘先生話題提供

14:10 休憩

14:20 交流会

15:40 まとめ

16:00 終了

## 平成23年度 会費納入のお願い

平成23年度いわて思春期研究会会費

3000円を、同封の振込用紙にて納入を

お願いいたします。6月12日の交流会の

際に直接納入することもできます。

## <編集後記>

ニュースレターの発行が遅れまして、大変申し訳ありません。米澤慎悦さん、住吉美保さんのご協力を得て、ようやく出来上がりました。大震災の影響ばかりではなく、広報部責任者の私の怠慢をお詫びいたします。

震災直後は普通に生活していることが後ろめたく、何かやらなければと思っても何も出来ないことに苛立ちを感じたりしました。自分の出来る範囲で自分の出来ることをやるのが復興支援と、多くの方が日常の暮らしに戻っていると思っております。

6月12日には皆様のいろいろの思いをお話いただきたいと思っております。多くの皆様の出席をお願い致します。(臼井由紀子)

# いわて思春期研究会ニュースレター

第2号

2011年6月3日発行

発行元：〒020-0193 岩手県滝沢村滝沢字菓子 152-52 岩手県立大学看護学部「いわて思春期研究会」事務局  
TEL 019-694-2280 (福島裕子) FAX 019-694-2281 e-mail [yhukusim@iwate-pu.ac.jp](mailto:yhukusim@iwate-pu.ac.jp)

## 東日本大震災により被災された皆様へ

今回の大震災で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、一刻も早い復興をお祈りいたします。お亡くなりになられた方々には、心よりお悔やみ申し上げます。

いわて思春期研究会といたしましても被災地への様々な支援を続けていきたいと思っております。

## 平成23年度総会・講演会延期のお知らせ

6月12日に予定しておりました平成23年度総会は11月に延期になりました。11月の総会についての詳細は、次号のニュースレターでお知らせいたします。6月12日には、理事、会員の交流会開きます。(詳しくはP4をご覧ください)



## 2010年度 第1回いわて思春期研究会講演会の報告

2010.6.6

### メインテーマ「児童虐待」

「児童虐待の実態と対応の状況」 岩手県福祉総合相談センター 中野 幸二郎先生

「児童虐待の要因を探る 母子・父子関係・愛着障害など」

すずきひろこ心理療法研究室室長 鈴木 廣子先生

講演会には91名(会員46名、一般45名)もの参加があり、会場に入りきれないのではないかと心配するほどでした。「児童虐待」についてお二人の先生から、岩手県の現状や、母子のボンディング・愛着障害についてご講演をいただきました。

講演会後にはグループ分けした参加者同士で、講演内容について討論を行いました。これによりテーマについての理解と共感が深まったと思います。大変貴重な講演会でした。(事務局より)

虐待の構造を詳しく教えていただいた。要因はわかっているものの、自分が何をなすべきかを考えることの難しさを、グループ討議で感じることができた。このような研修を積み重ねることで、自分なりの考え、理論ができていくのではと思った。関心を持つこと、行動することを大切にしていきたい。(参加者感想)



## 平成 22 年度 第 2 回講演会が 開催されました



講師の 八木淳子先生

## 「生きづらさを抱えた人々 ～ 司法現場からみた発達障害とその近隣領域～」

講師：盛岡少年刑務所医務課長 八木 淳子 先生

平成 23 年 1 月 10 日（月・祝）アイーナ・いわて県民情報センター812 研修室において「生きづらさを抱えた人々～司法現場からみた発達障害とその近接領域」と題し、盛岡少年刑務所医務課長八木淳子先生による第 2 回講演会が開催されました。

教員、養護教諭、助産師、スクールカウンセラーのほか高校生や大学生など 81 名の参加があり、講演後に 5 つのグループに分かれ熱心なディスカッションも行われました。

先生は、多くの受刑者との関わりの中で、受刑者の心理や行動特性について分析したところ、73%の受刑者に何らかの発達障害または発達障害様症状がみられた。また、非行・犯罪が生まれる背景には、本人の資質の他に生育歴、社会的要因などが重なり起こる。そして、発達の障害の背景には、乳幼児期から大人との十分な相互的やり取りを経験できなかったり、愛着の障害があることなどを話され、発達段階での大人モデルの存在の重要性や、一人ひとりを良く見てその人に合った支援をしていくことで、育て直しはいつからでもできると力説されました。

### ～参加者からの感想より～

乳児期の基本的信頼関係の構築が大切だということを再度認識しました。様々な環境によって生きづらくなっている子ども達や、またその保護者を自分なりの力でなんとか方向転換の手助けをできればと思っています。

本当に分かりやすい内容でした。ありがとうございました。

講演を聞かせていただき、今まではどうしようもないと考えていた生育歴の問題について「過去は変えられないが、未来は変えられる」「育ち直しはできる」という考えを持って関わっていけば良いということが分かり、今後に生かしていこうと思いました。グループワークでも「子どもは必ず成長する存在である」という話を聞き、その視点を持って関わっていきたいと思います。とても勉強になった講演会でした。



## 「岩手県の青少年の自尊感情と生活実態 に関する調査」について

調査研究部 佐藤 卓

平成 21 年に本研究会がスタートした際、今後、研究会が様々な活動を行うにあたり、まず思春期の子供たちの考え方や生活実態を把握することが必要だ、との声が大きくありました。その声を受けて、研究会の最初の調査事業として本調査を実施することになり、調査研究部では調査計画について検討を始めました。資金面では岩手県立大学の「平成 22 年度公募型地域課題研究」の助成を受け、作業メンバーも増員して調査内容の検討を重ね、平成 23 年中の調査実施に向け、3 月初めには県立大学の倫理審査委員会に調査計画案を提出しました。

調査計画の概要は以下のとおりです。

### 調査対象

県内をいくつかのブロックに分け、ブロック毎に生徒数割合で学校を抽出し、その学校の各学年の生徒を調査対象とします。調査数は、中学生と高校生の各学年それぞれ男女約 1,500 名、計約 18,000 名、調査対象となった中学生の保護者約 9,000 名（中学生は親子ペアでの調査）です。

### 調査方法

自記式無記名のアンケート方式です。回答済みの調査用紙は他人の目に触れることの無いよう配慮します。

### 調査内容

家庭や学校における生活実態、親や友人との関係、男女交際の実態などと、子供たちの自尊感情との関連を明らかにできる調査内容です。

3 月 11 日、東日本大震災が発生、沿岸部を大津波が襲いました。未だ混乱のおさまらない 4 月早々、県立大学の倫理審査委員会が開催され、本調査計画は一部条件付きで倫理審査をクリアしました。しかし、倫理審査委員会からは、学校自体が被災し、また調査対象である生徒の多くも被災している現状で本調査を行うことは適当か、という意見がありました。調査研究部でも同じ思いでした。

そこで審査結果を受けて調査研究部で話し合い、震災後の混乱が収まり、県内全域を対象とした調査の実施が適当と判断されるまで調査は延期しよう、ただし、調査が必要になった時には、すぐにでも調査ができるようパイロットテストは年内に行おう、という結論に達しました。

調査研究部では、今秋以降に時期をみて中学、高校各 1 校程度を選定し、パイロットテストを行う予定です。パイロットテストの結果をもとに調査項目等を再度検討し、いつになるかわかりませんが、本調査の実施に備えたいと考えています。

会員の皆様のご意見等をお待ちしております。

いわて思春期研究会調査研究部メンバー：佐藤卓、鈴木祐子、多田まゆみ、智田文徳、野口恭子、福島裕子  
山口淑子、吉田耕太郎、川嶋範子